

栗東市農業振興基本計画中間報告

○概要
栗東市農業振興基本計画は、市内の農業を取り巻く社会的情勢の変化や課題に対応しつつ、経済的・社会的に持続可能な農業の発展を目指すため、本計画は令和4年度（2022年）から令和11年度（2029年）までの8年間で計画期間として設定し、「第六次栗東市総合計画」をはじめとする関連計画との整合を図りながら策定しています。
また、計画は都市農業振興基本法第10条に基づき、栗東市における都市農業の振興を重点施策として位置付けを行い、これにより、都市的地域の特性を活かした農業振興と、地域社会との調和を実現することを目指しています。
今回、中間報告において、計画の進捗状況や課題を把握し、今後の計画における施策の適切な展開を図ることを目的とし、これまでの取り組みを評価するために実施しています。

○中間評価判断指標
本計画を牽引する役割を担う重要施策がチャレンジプロジェクトに位置付けされていることから、計画P43～47に記載の目標値により、計画の中間進捗状況を把握しています。

（１）健康・安心ブランド『（仮称）栗東のめぐみ農作物』促進プロジェクト

指標	計画策定時数値	目標値	現状値
「栗東いちじく」直売所・市場出荷量	13t/年（1パック350 g 計算） （令和2（2020）年）	16t/年（1パック350 g 計算） （令和11（2029）年）	9t/年（1パック300 g 計算） （令和7（2025）年）
「栗東いちじく」の担い手（生産者）数	14戸 （令和3（2021）年）	17戸 （令和11（2029）年）	13戸 （令和7（2025）年）

○評価：農作物を認定し、支援を行うために「うますぎる栗東農産物特産物品認証制度」を創設し、令和 7 年度においては栗東いちじくが栗東市G1認証登録されブランド化につながった。
○課題：栗東いちじく自体のブランド化は進んでいるが、生産者の高齢化による生産者の減少者や気候の高温化による高温障害で生産量の減少することが課題となっている。
○対応：ブランド化したことの周知を行う。また、生産者の省力化や高温対策のために国や県の補助金を紹介を行うと共に、新規生産者確保のため、就農希望者に対し栗東いちじく推進や生産者の紹介を行う等の支援を行う。現在、新規就農者が 1 名、いちじく栽培での就農希望者が 2 名おり、農業大学校に通う等、今後生産者や生産量の増加が見込まれる。

（２）栗東農業の次代を託す担い手支援強化プロジェクト

指標	計画策定時数値	目標値	現状値
認定新規就農者数	6人 （累計、令和3（2021）年）	10人 （累計、令和11（2029）年）	7人 （累計、令和7（2025）年）

○評価：令和 7 年度に認定新規就農者が1名就農しており、増加傾向である。
○課題：就農相談は年間で数回あるが、認定新規就農者は売上目標（年間250万円）や面積要件（ハウスなら1,000㎡）、年間総労働時間（主たる従事者1人あたり概ね2,000時間）であること等がハードルとなっている。
○対応：就農に関する相談を受け、農業大学校や地域生産者を紹介や補助金の紹介を行い、就農に向けた支援を行うことで、今後の認定新規就農者が増えていくことが見込まれる。

（３）生産者と消費者をつなぐ農“縁”づくりプロジェクト

指標	計画策定時数値	目標値	現状値
特定農地貸付法による市民農園の開設箇所数	1 箇所 （令和3（2021）年）	4 箇所 （令和11（2029）年）	1 箇所 （令和7（2025）年）
「野菜教室」への参加者数	10人 （累計、令和3（2021）年）	100人 （累計、令和11（2029）年）	49人 （累計、令和7（2025）年）

○評価：市民農園の開設は地権者の意向によるものであるため、現状変化はないが、野菜教室に関しては年々参加人数が増加傾向にある。
○課題：市民農園の開設については、地権者のタイミングでの開設となるため、現在新規の開設までは至っていない。野菜教室については、平日開催であることから、参加を断念されている方がおられる。
○対応：市民農園の開設は、現在、1 件の相談を受けており開設に向けて支援を行っている。野菜教室は、休日の開催や魅力向上のため栽培野菜の変更について委託先と協議を行っている。農園や野菜教室を通じて農業に触れる機会が増加することで、農に関心を持つ人が増加することが見込まれる。

○総括
指標に基づき、本計画の中間評価を実施した。一部の指標は計画当時より減少傾向にあるが、後半期にかけては全体的に数値の増加見込まれる状況にあることなどから、本計画は順調に進捗をしており、計画達成年度の令和 1 1 年には一定の成果を達成することが見込まれる。